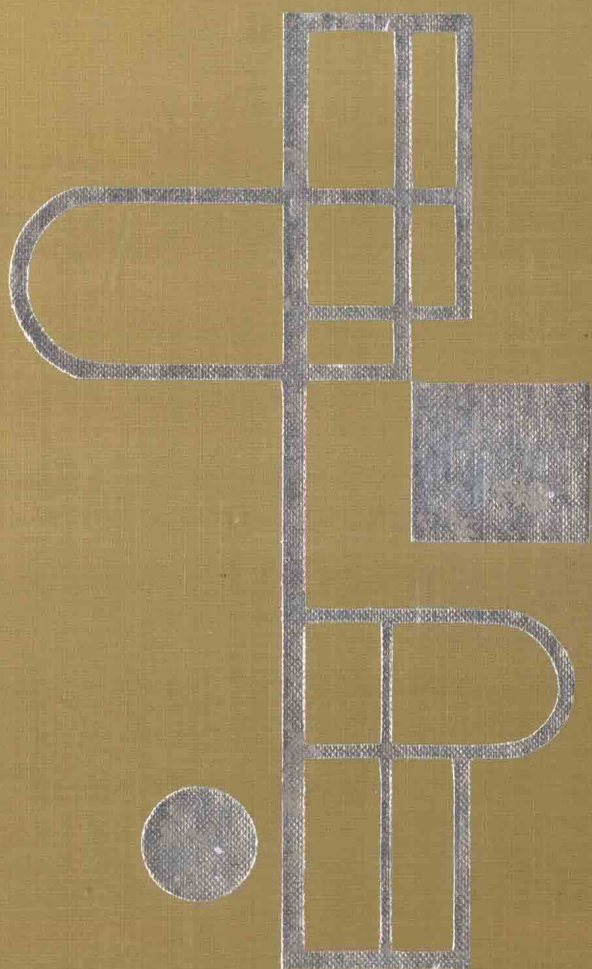




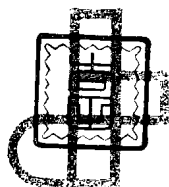
現代日本文學年表

現代日本文學全集

別卷 2

筑 摩 書 房 版

現代日本文學全集 別卷 2



現代日本文學年表

昭和三十三年九月二十五日 初版發行
昭和三十六年九月 十日 補訂發行

編者 吉田 精一 (よしだ せいいち)

發行者 古田 晁 (ふるた へい)
 東京都千代田區神田小川町二ノ八

印刷者 山田 一雄 (やまだ ひとお)
 東京都青梅市根ヶ布三八五

發行所 筑摩書房 (ちくま しょうぼう)
 東京都千代田區神田小川町二ノ八

(電話) 東京二九一局 四七六五 (代表)
振替 東京 一六五七六八

整版 株式會社 精興
印刷 株式會社 精興
製本 美行製本有限會社

現代日本文學年表

吉田精一編

凡 例

一 この年表は、一年を以て一區劃とし、更にそれを月ごとに分けて、重要な項目を配置することにした。

二 取捨の標準は勿論文學的意義を主としたが、時にさほどでない作家も、その存在を印するために一二の作品を拾うようにした。反對に、捨てるに忍びないものも、紙面の制約上割愛した例がある。

三 作者の姓名は原則として正確に記すことをたてまえとしたが、頻出度数によつては、雅號その他で表示した。但し同姓で誤解をうける場合に限り、省略をしていない。猶變名、匿名の場合には、出来る限りその本名もしくは正名を注記した。テキストが全然無署名の場合は多くはそのままだにした。

四 作品所載の雑誌新聞名はすべてこれをあげた。それが無いのは單行書である。短篇集をあげる時はなるべく全集をもたぬ作家に寛大とした。

五 連載の場合は、書き下ろし出版をのぞき、雑誌新聞初出の記載の下に終了の年月をのせ、合せて單行書の發行年月を加えることをたてまえとした。しかし、時には單行書の發行年月のみをのせて、終了の年月を省いた。これは紙面の都合、連載の發表雑誌が區々であるため、調査未了の何れかの理由による。逆に終了の年月のみをのせて、刊年をしるさぬこともある。これは、單行書のないもの、單行書の一部にすぎぬ場合、單行書に明確な年月の表示ない場合、もしくは調査未了、のいずれかの理由による。

六 記載の順序は、第一段は、詩（創作）、詩論、短歌（創作）、歌論、俳句（創作）、俳論とした。詩の場合翻譯はそれぞれの次に置き、評論をのぞき單行書を主とした。この順序によつて、未知の著書もそのジャンルを察知し得よう。ただし不明のおそれある場合に限り、（歌）（俳）などの記號を入れた。題名もしくは著者によつて一見して辨別し得る場合には、この例に従わない。

七 第二段即ち小説、戯曲欄は、雑誌、新聞などに所収のものを先とし、單行書をあとにした。又部門別としては小説を先にし、戯曲をあとにし、翻譯小説、翻譯戯曲は、この順で創作のあとに置いた。單行書の場合も同斷。同一部門での排列順序は不同である。

八 第三段も、原則は第二段と同じである。隨筆、評論は際立つて區別することせず、一般的な問題や思想を扱つたもの、概論的なものを先にし、個別的な作家論、作品論を次に廻した。劇論は小説論のあとに置き、國語問題その他は更にそのあとにした。ただし紙面をフルに活用するため、時に順序を倒置している。

九 第四段第五段はこれをA事項、B社會とわけた。Aはその年度の日本文學藝術に直接關係ある事件、記事のをせ、Bは日本の社會、政治經濟事情等を主として、廣く世界の重大事件をも添えた。Aの末尾にはその年度文壇の主な事件、趨向、文人の生死などをのせ、Bの末尾には外國の著名な作品や文學的事件を加え參考に資した。

一〇 外國人名の表記は、テキストに關する限り今日誤りとされてゐるものも、ある時期の歴史的呼稱としてそのまま残し、また必ずしも統一しなかつた。（イブセン、スコベンハーエル、フローベル、タゴーレなど）

明治元年 (1868)						年次
5 月	閏 4 月	4 月	3 月	2 月	1 月	月
殉難後草(歌)(城兼文編)		諷歌新聞卷第二(井上文雄、大神御牧) 殉難前草(歌)(城兼文編)			歎涕和歌集初、二篇(宮地維宜編)	詩歌・俳句
						小説・戯曲
			西洋經濟小學(イリス・神田孝平譯)			評論・隨筆・雜
新聞日誌創刊 そよよく風創刊	社と稱す に移動、慶應義塾學 書籍の私刊賣買禁止 福澤諭吉、學塾を芝 藩に賦課して陸軍を 編制	公私雜報創刊 日日新聞創刊 内外新聞創刊 もしは革創刊 禁止 内外新聞創刊—六月	江湖南新聞創刊 内外新聞創刊—六月 禁止	中外新聞創刊 學習院開講		事項
太政官札發行 上野彰義隊の亂	太政官職制制定 兵員及び軍資金を列 藩に賦課して陸軍を 編制	江戶城明渡し、慶喜 水戸に幽居 貨幣改鑄の議決る	勝安房等、征討參謀 西郷隆盛と會見し、 慶喜のために哀を請 う 五箇條の御誓文發布	東征大總督熾仁親王 出發 德川慶喜、寛永寺に 入り謹慎の意を表す 堺で土佐藩士佛人十 餘名を殺傷	島羽伏見の戦、德川 慶喜、敗走して江戸 城に入る 王政復古を各條約國 に通告 德川慶喜、征討大號 令發布	社會

明治元年 (1868)						年次
11 月	10 月	9 月	8 月	7 月	6 月	月
	興風集(歌) (久坂通武) 南山踏雲錄 (伴林光平)	俳諧早合點 (岩波其山)	芭蕉翁古池眞傳 (春潮)		四英唱和集(歌) 獄窓唱和集(歌)	詩歌・俳句
						小説・戯曲
	聖教日課 (ブチジャン編)	訓蒙窮理圖解 (福澤諭吉) — 初秋刊とあり		立憲政體略 (加藤弘藏 弘之)		評論・隨筆・雜
					新聞紙類の私刊禁止 昌平黨を復興して土民の入學を許可	事項
	榎本武揚園館に走る 鳳駕東京に到着、江戸城を皇居とし東京城と改む 萬機御親裁の詔書下る	明治改元、一世一元の制定めらる 會津藩主松平容保投降して會津戦争終る 以降一二月までに東北諸藩相次いで降る インターナショナル第三回大會 イスパニヤ革命、女王出奔	榎本武揚、軍艦八隻を奪い脱走 奥羽追討軍若松城を圍む 天長節制定 明治天皇即位	江戸を東京と改む		社會

明治元年 (1868)			
		12 月	遷月二女和歌集 (大田垣邁月、高島式部)
(月不詳のものを一括す) 厚化粧萬年島田 (爲永春水) — 一〇年 薄倖幻日記一八編 (同) 初篇安政五年 — 一〇年 新增補西國奇談一七編 (同) 初篇安政三年—八年 薄緣娘白浪 (假名垣魯文) — 五年(?) 報響殿下茶屋聚—安政二年刊「當寫殿下茶屋聚」の改題本 (同) 假名讀八大傳三編 (同) 初編弘化五年 (爲永春水) 白縫譚五五、六編 (柳亭種彦) 初編嘉永二年 (柳下亭種員) — 一六年(?) 室町源氏胡蝶卷二三編 (柳亭種彦) 初編元治元年—一四年 (久保田彦作) 八大傳犬の草紙五〇編 (柳亭種彦) 初編嘉永元年—一四年 童話妙々車二三編 (同) 初篇安政二年 鼠洞通夜譚四、五、六編 (同) 初編慶應三年 兒雷也豪傑譚四三編 (柳水亭種清) 初編天保十年 (美園垣笑顔) 春色玉櫻 (山々亭有人) — 二年			
(月不詳のものを一括す) 全世界未來記 (デオスリコリダス・愛梅主人 近藤眞琴譯) 泰西國法論 (フィッセリング・津田眞一郎譯) 萬國新話 (柳川春三編) 靜軒一家言 (寺門靜軒)			
死—笠亭仙果、寺門靜軒、大隈言道、橋野覽 生—内田魯庵、山田美妙、徳富蘆花、三宅花圃、北村透谷、運壕麗水、入江爲守		慶應義塾と改稱	
ドストエフスキイ「白痴」 トルストイ「戦争と平和」			天皇、京都に遷幸 藤原美子、立皇后イギリス、ダズレーリ辭職、グラッドストーン首相となる

明治 2 年 (1869)							年次
7 月	6 月	5 月	4 月	3 月	2 月	1 月	月
	殉難續草 (城兼文編) 椎のこやて (橘冬照、東世子) 有節錄 (城兼文編)		殉難遺草 (城兼文編) 俳諧新聞誌再編 (秋原乙彦)		振氣篇 (春莊冗史)	殉難拾遺 (馬場文英編) 白雲日記 (八田知紀) 歎涕和歌集三、四編 (宮地惟宜編)	詩歌・俳句
							小説・戯曲
泰西史鑑 (勿的爾・西村鼎譯)			交易問答 (加藤弘藏) 玫瑰花冠記錄 (フチジャン翻刻)			鉛筆紀聞 (栗本鋤雲) 曉窓追録並補 (同)	評論・隨筆・雜
	昌平黌を改めて大學 校とし、開成、醫學 の二校を附屬	出版條令公布 贅書ヲ焚クノ儀 (公 議所議案錄)		六合新聞創刊 府縣に小學校設置	新聞紙印行條例制定		事項
開拓使をおく 府縣の稱を決定 イタリアとの修交通 商條約	藩籍奉還 公和諸侯の稱を廢し 華族と稱す ベルギーとの修交通 商條約調印	五稜郭の榎木武揚投 降 アメリカ大陸横斷鐵 道完成	露清通商條約成立	公議所開局 東京獎勵都		薩長土肥の四藩版籍 奉還を奏上 横井小楠歿さる	社會

明治 2 年 (1869)					
	12 月	11 月	10 月	9 月	8 月
(月不詳) 比賣島日記初篇(野村望東尼) 老のくりこと(井上文雄)		桂蔭(歌)(渡忠秋)	近世 殉國一人一首傳(城兼文編)	興風後集(城兼文編)	世界國盡(福澤諭吉) 平野國臣歌集
(月不詳) 新局九尾傳一〇編(爲永春水) 初編慶應二年—九年 七不思議葛飾譚一〇編(柳亭種彦) 初編元治元年 誠忠烈女銘々傳(山々亭有人)			脚日連記(古河默阿彌)		
(月不詳) 蘭學事始(杉田玄白)	西洋聞見錄前篇(村田文夫) — 後篇四年一月刊		西洋事情二篇(福澤諭吉)		
*この頃、魯文はじめ戯作者麁芝蔭だし 生—大町桂月、高安月郊、松瀬青々、鹽井雨江、川上眉山、大橋乙羽、石拂千亦、江見水陰、木下尚江、角田浩々歌巻、馬場孤蝶、村上露月	大學校を大學とし、開成所を大學兩校、醫學校を大學東校と命名 東京横濱間の電信開通		遊娯聲妓俳優雜劇小説家等改制ノ事(衆議院日誌)		
フローベール「感情ラマルチース、サントリブリアフ死す	中下太夫士以下の稱を廢し、すべて士族及卒とし、農工商は平民とす	スエズ運河開通		日獨修交通商條約調印 日澳修交通商條約調印	蝦夷地を北海道と改む 集議院規則制定

明治 3 年 (1870)									年次
9 月	8 月	7 月	6 月	5 月	4 月	3 月	2 月	1 月	月
沖繩集 (宜野灣朝保編)					海人の荊藻 (太田垣蓮月)				詩歌・俳句
西洋道中膝栗毛 (假名垣魯文) 一十九年 (總生寛)									小説・戯曲
								眞政大意 (加藤弘之)	評論・隨筆・雜
東京府下に中學校開設		海外新聞創刊一六年二月終刊	小學校を東京府六カ所に開設					歌會始復興	事項
平民に苗字を許す ナポレオン三世降服 フランス共和制成立		普佛戰爭起る	フランス第二帝政没落、第三共和制成る	京濱間乗合馬車開業		和泉和助、人力車を發明 伊豫等に農民一揆起る	樺太開拓使設置 バリで暴動起る		社會

明治 3 年 (1870)				
	12 月	11 月	閏10月	10 月
(月不詳) 未味漢語都々逸(山々亭有人)				
(月不詳) 金花七變化二八、二九、三〇編(假名垣魯文) 〓初編安政七年 柳蔭月朝妻(山々亭有人) 〓四年(?) 北雪美談時代加賀美四〇編(爲永春水) 〓初編安政二年 〓一五年(柳水亭種清)				
(月不詳) 西洋史記(駝悞屢・村上義茂譯) 西洋航行新説(中井櫻州)				西洋易知録(科利耳・河津孫四郎譯)
死 〓柳河春三、中山 胡民 生 〓金子筑水、松居 松翁、伊原青々園、巖 谷小波、藤岡作太郎、 笹川臨風、木村篤太 郎、田岡嶺雲、菊池 幽芳、堺利彦、五百 木飄亭	横濱新聞創刊 織田純一郎、吹米留 學に出發		京都に中學校開設	
死 〓 生 〓 ディッケンズ、デュー マリベール、ジュ ル・ド・ゴンクール、 メリメ、ゲルツェン 死す	徴兵規則を發布 庶民の佩刀禁止			イタリアの統一完成

明治 4 年 (1871)							年次
7 月	6 月	5 月	4 月	3 月	2 月	1 月	月
見外發句集(小林見外)			夕日岡月並集(伊達千廣編)		類題新竹集(猿渡容盛編)		詩歌・俳句
		牛店 談安愚樂鍋初篇(假名垣魯文)——五年					小説・戯曲
西國立志編(スマイルス・中村正直譯)		西洋夜話(寧靜學人譯)			自由之理(ミル・中村敬字譯)		評論・隨筆・雜
文部省設置 新聞紙條例制定		新聞雜誌創刊	横濱毎日新聞創刊	慶應義塾三田に移轉			事項 出版條例制定
廢藩置縣 日清修交條約締結		新髮廢刀許可	戶籍法の制定 ドイツ帝國成立	樹立 バリ、コンミュニオン			社會 郵便規則を定む

明治 4 年 (1871)

明治 5 年 (1872)								年次
8 月	7 月	6 月	5 月	4 月	3 月	2 月	1 月	月
		世界都路 (假名垣魯文)						詩歌・俳句
		大洋新話 蛸之入道魚説教 (假名垣魯文)		魯敏遜全傳 (齋藤了庵譯)			河童相傳 胡瓜遣 (假名垣魯文)	小説・戯曲
			童蒙をしへ草 (福澤諭吉)			學問のすゝめ (福澤諭吉) 一九年	西洋新書 (瓜生政和・梅亭金鷲)	評論・隨筆・雜
	三條の教憲に對し、魯文、有人著作道書 上げ提出	郵便報知新聞創刊		東京女學館設立 教部省三條の教憲發 令	日新眞事誌創刊 守印座を新富町に移 す	東京日日新聞創刊	毎週新聞、萬國新聞 創刊	事項
學制發布、義務教育 制の實施 農民間の身分制度 (草分・水吞等)を 禁じ、職業の自由を 許す				女子斷髮禁止 庄屋、名主、年寄を 廢止 改正戸籍法發布	刺青禁止布告	陸軍省、海軍省設置 東京横濱間鐵道落成 につき鐵道略則制定	卒の身分廢止 戸籍簿編成 文部省出版條令發布	社會

明治 5 年 (1872)				
	12 月	11 月	10 月	9 月
(月不詳) 明治五年御會始歌集 なるをの松 (岡本保孝) 國富士の麓 (吉良義風)			日本國畫 (瓜生三夷)	
(月不詳) 今朝春三組盆 (三遊亭圓朝作、山々亭 有人綴) 聖慮聖人肝潰志 (万亭應賀) 新文聖年五穀祭 (同) 新文豐年五穀祭 (同) 大鈍託新文鬼談 (同) 倭國字西洋文庫 (假名垣魯文)				かたわ娘 (福澤諭吉)
(月不詳) 西洋料理通 (假名垣魯文)				
*戯作者何れも本名 となり目肅す 生一島崎藤村、樋口 一葉、佐々醒雪、大 野酒竹、佐佐木信綱、 杉村楚人冠、岡鬼太 郎、岡本綺堂、武島 羽衣、木村曙、篠原 溫亭			東京師範學校開設	
ゴーチエ、グリルバ ルツァー死す バクレーン、無政府 黨を組織	徴兵令發布、常備軍 制度確立	太陽曆採用、明治五 年十二月三日を六年 一月一日とする旨布 告 神武天皇即位年を紀 元元年と制定 國立銀行條例制定	儀禮娼妓解放布告、 人身賣買禁止	新橋横濱間鐵道開通 式

明治 6 年 (1873)								年次
8 月	7 月	6 月	5 月	4 月	3 月	2 月	1 月	月
文明 開化童戯百人一首 (總生寛編)					横文字百人一首 (黒川眞頼選)	學 小暗誦十詞 (福澤諭吉)		詩・歌・俳句
			芳 餘談二葉廼風 (瓜生政和)	復古夢物語 (松村春輔) 九年 通俗伊蘇普物語 (渡邊溫譯)	和漢三才圖笑 (万亭應賀) 脚太鼓音智勇三略 (古河默阿彌) 脚梅雨小袖娘八丈 (同)	かたわむすこ (西村雪臺) 脚鞋補重教草 (佐橋富三郎)	脚 本其粉色陶器交易 (佐橋富三郎)	小 説・戯 曲
	三則教の捷徑 (假名垣魯文) 致知啓蒙 (西周)							評論・隨筆・雜
公文通誌 (朝鮮新聞 の前身) 創刊	森有禮、明六社の結 成を首唱					中村正直等同志社を 設立 まいにちひらかなし んぶんし創刊 海外雜誌創刊	東京假名書新聞創刊	事 項
	地租改正條例制定 國立第一銀行開業	徴兵令をめぐって各 地に血税騒動起る		上野公園開園	可 明治天皇斷髮 外國人との結婚を許	仇討禁止 キリスト教信仰の禁 を解く	六鎗臺設置成る ナボレオン三世死す	社 會